

こわれた千の楽器①

四年 組 番
名前

このお話は、月に言われた一言から、さまざまな楽器が力を合わせて音楽を作っていく様子がえがかれています。

楽器たちや月の気持ちや様子を想そうして、くふうして音読しましょう。

一の場面（18ページから19ページ4行目まで）を読み、場所、登場人物、時間について答えましょう。

○場所

ある（ ）町の（ ）にある（ ）

○登場人物

①（ ）と ②（ ）

①のぞいているのはだれ？

②せ中をかくしているのはだれ？

○時間（ ）（…空にはだれがいる？）

◎ふき出しにある様子や気持ちのヒントから、声の大きさや話す速さを考え、あてはまる方に丸をつけましょう。

①（ ）「おやおや、ここはこわれた楽器の倉庫だな。」

- ・声の大きさは、（大きく・小さく）。
- ・速さは、（速く・ゆっく）。
- ・（うれしそうに・ぶしぎょうに）読む。

・倉庫にある。
・くもの巣をかぶっている。
・楽器たちがねむっている。
・こわれていてかわいそう。

②（ ）「いいえ、わたしたちはこわれてなんかいません。働きつかれてちよつと休ん

でいるんです。」

- ・声の大きさは、（大きく・小さく）。
- ・速さは、（速く・ゆっく）。
- ・（強く・なまごうに）読む。

・声を聞いて、目を覚ました。
・あわてている。
・せなかをかくした。
・ひどいな。

①（ ）「いやいや、これはどうもしつれい。」

- ・声の大きさは、（大きく・小さく）。
- ・速さは、（速く・ゆっく）。
- ・（気まずい気持ちで・うきうきした気持ちで）読む。

・きまり悪そうにまどか
らはなれた。

こわれた千の楽器^{がっき} ②

四年 組 番
名前

一の場面では、ねむっていた楽器たちが目をさましたね。
二の場面は、楽器たちの様子や気持ちの変化がくわしくえがかれています。
よく読んで想像し、くふうして音読しましょう。

◎二の場面(19ページ5行目から21ページ10行目まで)を読み、()にあてはまる登場人物や、言葉を書きましよう。

また、ふき出しにある様子や気持ちのヒントから、声の大きさや話す速さを考え、あてはまる方に丸をつけましよう。

(1) チェロ「わたしは、()を言ってしまった。こわれているのにこわれていないなんて。」

・声の大きさは、(大きく・小さく)。
・速さは、(速く・ゆっくり)。
・(がっかりしている感じ)・(きこえている感じ)で読む。

・しょんぼりとして
いる。

(2) 「自分がこわれた楽器だなんて、だれが思いたいものですか。わたしだって、ゆめの中では、いつもすてきなえんそうをしているわ。」

(3) 「ああ、もう一度えんそうがしたいなあ。」

(4) 「えんそうがしたい。」

(5) やぶれた ()

「でも、できないなあ。こんなにこわれてしまっていて、できるはずがないよ。」

(6) ()

「いや、できるかもしれない。いやいや、()。たとえば、こわれた

十の楽器で、()になろう。十がだめなら十五で、十五がだめなら

二十で、()になるんだ。」

・声の大きさは、(大きく・小さく)。

(7) 「それは名案だわ。」

(8) 「それならばくにもできるかもしれない。」

・声の大きさは、(大きく・小さく)。

・はずんだ声で言った。

(9) ()

(10) ()

(11) ()

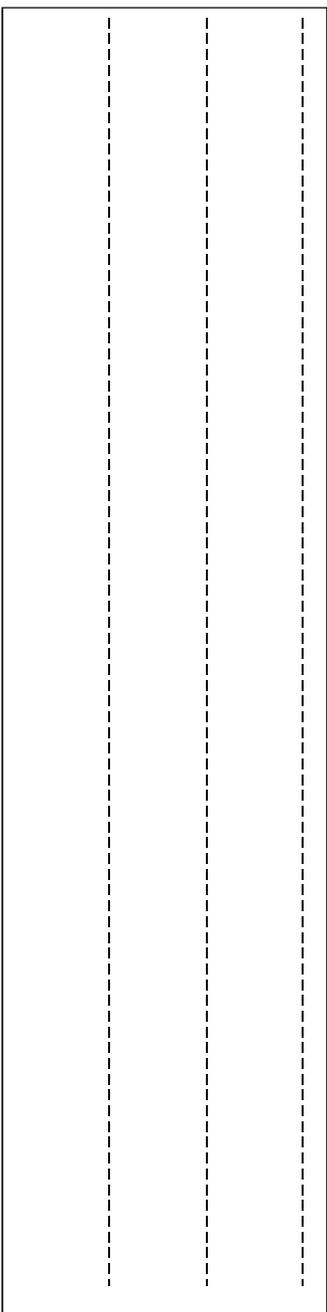
(12) ()

「やろう。」

・声の大きさは、(大きく・小さく)。
・(きんちようしている感じ)・
うきうきした感じ)で読む。

立ち上がって言った。

◎ 楽器たちの気持ちが変わっていったのか、想ぞうして書こう。



こわれた千の楽器 がっき ③

四年 組 番
名前

いよいよ楽器たちの練習が始まりました。様子や気持ちを想ぞうしくふうして音読しましょう。

また、えんそうを聞いた月の様子や気持ちを想ぞうして音読しましょう。

◎三の場面(21ページ10行目から22ページ7行目まで)を読み、練習している楽器たちの気持ちにあてはまる言葉すべてに丸をつけましょう。つけ足しで書ける人は書きましよう。

- みんなといっしょにできて楽しい。 ・みんなで一つになろう。
- やっぱりできない。 ・もっと上手になりたい。
- 練習やだな。

書ける人

◎「できた。」「できた。」に合う読み方を、ふき出しにある様子や気持ちのヒントから、あてはまる読み方に丸をつけましよう。

・(うれしい感じ・きんちようしている感じ)で読む。

・毎日毎日練習が続けられた。
・やっど音が出た。
・おどりがうがってよろこんだ。

◎四の場面(22ページ8行目から23ページまで)を読み、()にあてはまる言葉を書いたり、丸をつけたりましよう。

- 月の様子
ある夜、()を通りかかり、()が流れている方へ近づいた。
- 気持ち 「なんときれいな音。だれがえんそうしているんだらう。」

・(つきつきした気持ち・ふあんそうな気持ち)。

・楽器たちの様子

- 千の楽器が()と、えんそうに()。
- こわれている楽器は一つも()。一つ一つがみんな()。
- おたがいに()を()、音楽を作っていた。

・月の様子

音楽におし上げられるように、()上っていった。

・気持ち「ああ、いいなあ。」

- ()と聞きほれた。
- 思い出しては、()を大空いっぱいにふき上げた。